

- 9月6～9日にかけて、IAEAの幹部（エヴラール事務次長）が訪日し、ALPS処理水関連設備を視察するとともに、処理水の安全性に関するレビューの本格実施に向けた協議を実施。
⇒ 8月19日の梶山大臣とグロッシー事務局長との会談における合意事項が実現した形。

エヴラール事務次長訪日の主なポイント

① 経済産業省等の関係省庁との協議

- 今年12月をめどに、IAEAの評価派遣団が訪日し、
 - ① 放出される水の性状
 - ② 放出プロセスの安全性
 - ③ 人と環境の保護に関する放射線影響についてIAEAの安全基準に照らした評価を行うことで合意。

② 福島第一原発の視察

- レビューの対象となるALPS、処理水貯蔵タンク群、処理水の処分に
関する設備の設置が検討されている港湾部等の現場を視察し、東京電力等と技術的な意見交換を実施。

③ 江島副大臣との会談

- 江島副大臣から、専門的な国際機関であるIAEAにおいて、ALPS処理水の安全性について、放出直前まで繰り返しレビューが行われることの重要性を伝達。
- エヴラール事務次長からは、透明性高く客観的なレビューを行っていくという考えが示唆。



関係省庁との合同会合



現地視察をするエヴラール事務次長（中央）



エヴラール事務次長（右）と江島副大臣